

治療用ミルクの調製のための 臨床系と基礎系研究の連携を目指して

阪中 幹祥

腸内細菌による
ヒトミルクオリゴ糖代謝

浦島 匡

ヒトミルクオリゴ糖
機能概論

和田 友香

小児科系臨床

日時：2025年12月22日 (17:00～19:00)

形式：ハイブリット (Zoom+オンサイト)

岐阜大学糖鎖生命コア研究所岐阜研究棟

2階会議室205にてオンサイトでも参加できます

お申し込みは下記まで (前日までにZoomリンクをお送りします)

<https://forms.office.com/r/xdjBm2NF24>



演題：

1. ヒトミルクオリゴ糖 (HMOs)の健康機能効果と社会実装
浦島 匡 先生 (帯広畜産大学名誉教授)
2. ビフィズス菌によるヒトミルクオリゴ糖 (HMOs) 代謝と
その生理学的意義
阪中 幹祥 先生 (龍谷大学農学部准教授)
3. 新生児集中治療室におけるヒト母乳の役割
和田 友香 先生 (国立成育医療研究センター新生児科医長)

概要：

母乳1リットルに11.3グラム含まれるヒトミルクオリゴ糖(HMOs)。その役割に関心が集まっています。あかちゃんの感染を予防する、アレルギー症状を抑える、未熟児にしばしば深刻な症状をもたらす壊死性腸炎を予防する、あかちゃんの脳の発達を促す、早期脂肪リバウンドを抑え肥満を防止する、低栄養乳児の成長を促すなど。その働きには、腸内細菌 (主にビフィズス菌) によるHMOs代謝物によるものとHMOs自身が上皮などの細胞と相互作用するものがあります。壊死性腸炎や発達遅延などをもつあかちゃんへの治療に機能をもったHMOを使用するためには機能探索とともに、臨床症状をもつあかちゃんの飲む母乳にどのHMOが足りないのか調査するコホート研究が欠かせません。そのような情報は治療用母乳バンクを作るためにも必要です。臨床系研究者と糖鎖研究者との連携が求められています。本セミナーでは、コラボレイティブフェローである浦島匡先生に加え、基礎と臨床の両分野から第一線で活躍されている阪中幹祥先生、和田友香先生をお招きし、HMOs研究の最前線と臨床応用に向けた展開について、活発に議論できる場を提供します。

主催：帯広畜産大学

協力：岐阜大学 糖鎖生命コア研究所

お問い合わせ：j-glyconet@igcore.nagoya-u.ac.jp